

滅びゆくトンパ文字の偏り

— 「トンパ文字総覧」と『語彙分類表』との比較研究 —

松 田 美 香

The Imbalance of TOMPA CHARACTERS

— The Comparative Study between

“TOMPA Characters APPENDIX” and

“JAPANESE Vocabulary Classification Table” —

Mika MATSUDA

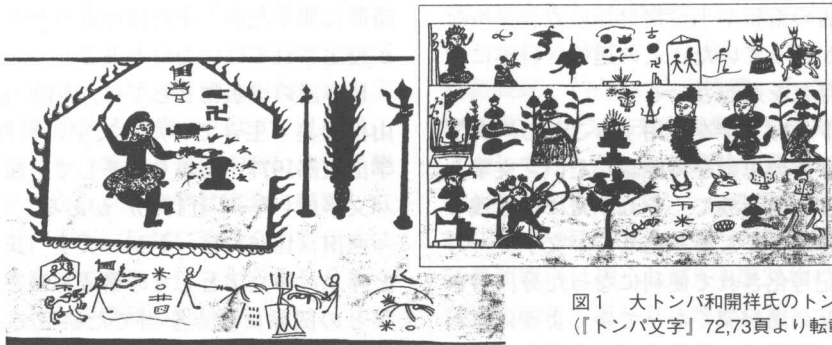


図1 大トンパと開祥氏のトンパ文字
 (『トンパ文字』72,73頁より転載)

1. 生きている象形絵文字

「トンパ文字」とは、中華人民共和国雲南省の奥地に居住するナシ族（モソ族¹）が使用している文字のことである。約2年前に『トンパ文字—生きているもう1つの象形文字—』（王超鷹1996。以下、『トンパ文字』と記述する）という本に出会うまで、筆者はこの文字のことを全く知らなかった。しかし、この「絵のような字、字のような絵」を知って、トンパ文字に

強く惹きつけられた。

そのプリミティブな魅力、素朴でユーモラスでときにグロテスクでもあり、ときに力強くあるいはまた優しく、色彩豊かで夢見るような文字たちは、いつどのように生まれたのか。

エジプト象形文字が約5,000年前、中国の亀甲文字が約3,500年前に使われはじめたと言われているが、トンパ文字が使われはじめたのは、今から約1,000年前とされている。唐の時代、日本では奈良時代～平安時代前期に当たる²。

トンパ文字はトンパ教の司祭ともいべき巫師（トンパ）が使用する文字である。そのトンパ教が出現したのは7世紀頃とされている。遊牧民であったナシ族は、その後10世紀頃雲南省に定住し、その頃にトンパ文字が誕生したと考えられている。

¹ ナシ族の名称は実に多様で、「モーシュ」「モーソ」「リシ」「マソ」「マリマサ」「ロカ」「パンツ」などがあるが、ここ1950年頃から「ナシ族」が定着してきた（『トンパ文字』44頁）。「モソ」は中国人に対応したナシ人が「わかりません」の意味で「モ・ス」と答えたところ、部族名と間違われたとされ、彼らの自称は「黒人」の意味の「ナシ (Na-khi)」であった（西田龍雄1966『生きている象形文字—モソ族の文化—』15頁）。

² トンパ文字の起源については、西田龍雄1966 174頁を参照。

ほんの数年前まで自動車でしか入ることの出来なかった山深い麗江県で、トンパ教とトンパ文字は今日まで生き続けてきたわけである。そして、その暮らしが意外にも日本の田舎のそれかと見間違ふほどの類似を見せることも、筆者にとっては神秘・魅力である。

現在は、麗江に飛行場が完成し、日本から麗江・昆明へのツアーも行われるようになった。筆者は、未だ当地に足を踏み入れたことはないが、おそらく都市化、漢民族文化化、西洋化が進んでいることであろう。最近、日本のテレビのニュース番組³でも取り上げられ、大トンパが皆高齢に達し、後継ぎが心配される状態であることを伝えていた。また、一方では、観光客用に土産物店の看板や土産物自体にカラフルなトンパ文字が踊っていた。この辺は、日本における方言の存在を連想させる⁴。

筆者は、トンパ文字を使用することで、文字に込める書き手の思いを再確認したい。文字としてはかなり自由奔放で、それゆえに生き残ることが難しくなってしまったトンパ文字。一方で、整備・記号化されて便利になった分、書き手の気持ちとの溝が深くなってゆくように思われる他の言語の文字を思う時、トンパ文字の魅力をもっと追究したいと思う。そして、大トンパのようにはいかなくても、何とか自分の暮らしにこの絵文字を取り入れてみたいと思うのである。

なお、トンパ文字は「象形文字」ではない。「やや整理された絵文字」だが、ここでは「象形絵文字」としておく。

2. トンパ文字の先行研究

中国・海外での研究書で、直接見ることができたのは、後述する2冊だけである。日本では、発見時は多少研究されたものの、現在単独で出

版された研究書としては、先述した『トンパ文字』くらいであろう。

少しさかのぼると、西田龍雄『生きている象形文字—モソ族の文化—』（中央公論社1966）にトンパ文字発見の経緯が記されている。19世紀後半のカトリック派チベット伝道団の宣教師オーギュスト・ドスゴダン神父（仏）が、1867年、チベットの某所でトンパ文字で描かれた写本11枚を入手、そのコピーをフランスの自宅に送った。その後1953年になって、地理学者であり、ナシ族研究者でもあったジョセフ・F・ロック博士（米）によって、その内容が解明されたのである。その後、言語学者のテリアン・ド・ラクペリ（仏）は、ナシ語をビルマ・ロロ語群に加えたが、まだはっきりとした対応関係が設定されてはいないとある⁵。

日本語の出版物としては、西田（1966）の後、山田勝美『生きていた絵文字の世界』（玉川大学出版部1977）があり、そして王超鷹の『トンパ文字』（マール社1996）がある。

西田（1966）は、トンパ文字（氏はモソ文字と呼ぶ）の文字としての構成方法と近隣の諸文字との関係に焦点を当てた研究である。山田（1977）は、トンパ文字や甲骨文字を通して、文字の成り立ちや字体の変遷について考察している。王（1996）は、武蔵野美大で造形学を専攻したことを生かして、ナシ族の文化・風俗を紹介しながら、トンパ文字で古いや踊り、神話や昔話を解説付きで描き、巻末には「トンパ文字総覧」というトンパ文字の入門・解説書を付した。

管見によれば、日本語の出版物でトンパ文字に関するものは他にない。

一方、中国語の出版物で手に入ったものは、今のところ李霖燦他編『モソ象形文字標音文字字典』（文史哲出版1945）と方国瑜編『ナシ象形文字譜』（雲南人民出版社1981）の2冊である。どちらも分野や部首にあたる共通部分毎にまとめたトンパ文字の一覧と、その意味解説が中心になっている。中国のトンパ文字研究者

³ 「ニュースステーション」1995年12月25日放送（テレビ朝日）。また、「ニュースイレブン」1996年11月6日放送（NHK）でも、詳しく報道されている。

⁴ 各地での衰退の一方、土産物や地域おこしの材料として活発に利用されている方言の存在と似ている。

⁵ 西田1966, 5~10頁参照。

が大トンパの協力を得て、一文字ずつの意味と経典等の文章の解説を聞き、整理したものである。

とはいえ、筆者は中国語に疎く、これを理解・研究するのは今後の課題である。

『トンパ文字』の参考文献を見ても、この他に文字に関する研究書はほとんど無いようである。

3. 目的と方法

本論における目的は、トンパ文字を使って日本語を書き表す場合、どのような不都合が生じるかを知ることにある。筆者は、この魅力的な文字を生活の場に応用し、できれば筆者と関わる学生や多くの人々と共有していきたいという夢をもっている。トンパ文字は、おおむね1文字が1語彙に相当すると考えてよい。しかし、概観しただけでも、筆者らが日本語において使用している語彙をトンパ文字は完全に網羅していないようだ。また、反対に筆者らの生活には不必要な語彙を表す文字も少なからず有りそうだ。まず、それらを整理してみたい。

他のいわゆる文明国語であつたら、細かなニュアンスは伝えきれない場合があるものの、伝えたい意味に当たる語彙が無い場合は比較にならないほど少ないだろう。トンパ文字が滅びの道を歩むであろう理由は、その文字群が表現する語彙の偏りにあるのではないか、このような仮説を立て、検証してみたい。

もともと、トンパ文字とて専ら音を担当すること⁶が無いわけではない。しかし、仮借を重ねることによって、一見ただで意味の取れる絵画性は確実に失われていく。表音文字も後に作られたが、その時には漢字の影響も大きく受けていたし、1つの音を表す文字が多数ある状態から抜け出すことができていない。

さて、方法としては、もともと利用しやすい『トンパ文字』の巻末に付された「トンパ文字総覧」と、現代日本語の語彙を網羅している『「分類語彙表」形式による語彙分類表(増補版)』(全2冊。国立国語研究所1996。以下、『語彙分類表』と呼ぶ)との比較を試みる。

日本語の語彙とその分類をトンパ文字に当てはめてみれば、目的とする「トンパ文字を使って日本語を書き表す場合、語彙的にどのような不都合が生じるか」を知ることができるし、その偏りも詳しく知ることができるであろう。

この比較作業は、まず、「トンパ文字総覧」の索引作りからはじめた。1998年4月から約1年間かけて、ゼミの学生と共に表計算用ソフト「Lotus1-2-3」を使用して、入力作業を行った。ひらがな表記による見出しを立て、漢字表記、英語表記、「トンパ文字総覧」中の頁数、段数、マス数、「トンパ文字総覧」での分類名の順で入力していった。同じ意味(語彙)で複数の文字が存在する場合は、1つの項にまとめた結果、2,112文字が1,516語になった。このトンパ文字50音順索引は縮小してA4版21枚にし、ゼミの学生に配布、現在ゼミ時に利用している。

次に立項された1文字(1語彙)ずつを『語彙分布表』の索引(第2分冊)で引き、分類番号を当てていった。今回は語彙を調べたいので、この時点で、表音文字48字は除外した。この作業は全て筆者が1人で行った。

多義語の場合は、それぞれを検討し、日本語独自の語彙の使い方と思われる場合は分類番号を付さなかった。『語彙分類表』に無い場合、「該当なし」と入力した。

最後に、『語彙分類表』の分類番号にしたがって並べ替えた。その結果については、次の「4. 調査結果」で述べる。

4. 調査結果

4-1. 「トンパ文字総覧」について

今回は、トンパ表音文字48字は除外し、表意文字のみを対象とする。すなわち、トンパ文字1字を1語彙と考える。複数の文字を組み合わせ

⁶ トンパ表音文字の他に、助詞や語彙などを、発音の同じトンパ文字で表すことがある。いわゆる仮借である。今回は、仮借文字を入れずに比較するつもりであるが、「トンパ文字総覧」に入っている限りは全て対象とする。

せて作ったと思われる語も、1項目として掲載されている場合、1語と計算することにする。その結果、掲載延べ語数は、2,112語。そして、この中には同じ語を表す複数の文字が存在するので、それらを統合すると、1,516語になった。

さらに、『語彙分類表』との比較のために、数語に分けられるものを分解し、それぞれに分類番号を付した、その語数は1,552になった。多義語は245語あり、総数は1,864語になった。

「トンパ文字総覧」では、12分類に沿って文字が配列されていて、「人間」144(語)、「動作」216、「人体」72、「人体・動作」48、「動物」264、「植物」144、「自然」312、「生活」648、「宗教」168、「数」48、「一月の暦」24、「星座」24である。しかし、この分類は文字の意味からされた部分と、文字の共通要素ごとにまとめられた部分が混在しており、例えば、「人体・動作」の中に「甘い」「苦い」が配置されている。これは「笑う」「咀嚼する」「飲む」という意味

の文字に口を使用し、「甘い」「苦い」も口を使用するために配置されていると思われる。また、「生活」の中に「美しい」「良い」「透明」「大きい」「遅い」「速い」「高い」「低い」などが配置されており、「生活」という大枠だけでは不十分と思われる。

以上、「トンパ文字総覧」について概要を述べたが、前述したような分類の不適切さは理由無きものではない。語彙分類としては不徹底でも、視覚的にはこのようにした方が整理され、統一された美しさがある。よって「トンパ文字総覧」の価値は十分に評価し、別の視点からさらに厳密な分類を試みたいと思う。

4-2. 『語彙分類表』

掲載延べ語数は87,743語。うち、多義語を統合した語(語としての異なり)数は、71,278語である⁷。この表は国立国語研究所『分類語彙表』(国立国語研究所資料集1964.03)がもとに

人体・動作 ◆ Body/Action

血/blood	血/blood	乳/breast	乳/breast
笑う/laugh	笑う/laugh	笑う/laugh	咀嚼する/masticate
飲む/drink	水を飲む/drink (water)	噛む/chew	噛む/chew
吐く/throw up	吐く/throw up	甘い/sweet	苦い/bitter
口紅/rouge	かみつく/bite	かみつく/bite	描く/draw out
拾う/pick up	拾う/pick up	握る/hold	噛む/chew, bite

生活 ◆ Life (24)

引き出す/draw out	吊る/hang	分ける/divide	招く/invite
増加/increase	圧力/pressure	一杯/full	一杯/full
挟む/pinch	赤色/red	金色/gold	緑色/green
白色/white	染色/dyeing	美しい/beautiful	綺麗な/pretty
黒色/black	良い/good	良い/good	流る/sand
置く/put	透明/transparency	大きい/big	大きい/big

図2 「甘い」「苦い」「美しい」「良い」などの分類(「トンパ文字総覧」の一部)

⁷ 詳しい数値は、『語彙分類表』3頁の「語彙量」を参照。

なっており、それを増補する研究の成果物である。この『語彙分類表』はまだ完成してはいないが、『分類語彙表』に比べ53,000語以上追加されており、より現実の日本語生活に即したものになっているので、比較に適していると考えられる。

さて、語彙分類表の分類方法は、「体の類」「用の類」「相の類」「その他の類」が最上位にある。「体」はいわゆる体言、名詞相当の語。「用」はいわゆる用言、動詞相当の語。「相」はいわゆる形容詞・形容動詞・副詞相当の語。「その他の類」は他の3分類のどこにも属さない語である。さらに、「体の類」は「抽象的關係」、「人間活動の主体」「人間活動 精神および行為」「生産物および用具」「自然物および自然現象」の4つに、「用の類」は「抽象的關係」「人間活動 精神および行為」「自然現象」の3つに、「相の類」は「抽象的關係」「人間活動 精神および行為」の2つに下位分類される。これらはさらにもう1段階細かく分類される。それぞれ上位の分類から、「大分類」「中分類」「小分類」とも呼ぶ。

4-3. 比較結果

① 大分類の比率比較

表1 それぞれ大分類の延べ語数に対する比率

	「トンプ」	『語彙分類』
体の類	62.50% 1,165語	63.36% 55,591語
用の類	17.97% 335語	24.70% 21,669語
相の類	2.74% 51語	11.27% 9,890語
その他の類	0% 0語	0.84% 741語
該当なしの語※	16.74% 312語	—

※「『語彙分類表』に該当なし」の語彙数。

体の類…いわゆる体言（名詞）相当の語彙
用の類…いわゆる用言（動詞）相当の語彙
相の類…いわゆる形容詞・形容動詞・副詞相当の語彙

② 中分類の比率比較

表2 それぞれ中分類の大分類に対する比率

大分類・中分類	「トンプ」	『語彙』
体・抽象的關係	16.66% 194	22.65% 12,558
体・人間活動の主体	12.53% 146	13.16% 7,297
体・人間活動 精神および行為	10.90% 127	34.71% 19,247
体・生産物および用具	24.55% 286	14.69% 8,145
体・自然物および自然現象	35.53% 414	13.92% 7,719
用・抽象的關係	44.78% 150	38.45% 8,332
用・精神および行為	48.96% 164	54.90% 11,897
用・自然現象	6.27% 21	6.69% 1,450
相・抽象的關係	58.82% 30	45.97% 4,546
相・精神および行為	17.65% 9	42.75% 4,228
相・自然現象	23.53% 12	11.28% 1,116

【体の類】

「トンプ文字総覧」の、「人間活動 精神および行為」の比率が、極端に少ない（10.87%）。『語彙分類表』の「人間活動 精神および行為」の比率は34.71%である。反対に「自然物および自然現象」は『語彙分類表』では13.92%なのに対して、「トンプ文字総覧」では35.53%である。

表3 体の類・中分類の比率（高比率順）

順位	「トンプ」	『語彙分類表』
1位	自然物および自然現象 35.53%	人間活動 精神および行為 34.71%
2位	生産物および用具 24.49%	抽象的關係 22.65%
3位	抽象的關係 16.60%	生産物および用具 14.69%
4位	人間活動の主体 12.50%	自然物および自然現象 13.92%
5位	人間活動 精神および行為 10.87%	人間活動の主体 13.16%

8 この数は、文字に当てられた語彙を分解して数語にした場合も含むので、ただちに「該当なし」の文字数312とは言えない。見出し語通りの語としては該当しなかったということ。

体の類小分類の分布 (分布順上位のみ)

【用の類】

用の類に関しては、『語彙分類表』が「精神および行為」に54.90%と突出しているのに対し、「トンパ文字総覧」の方は「精神および行為」と「抽象的關係」がともに40%台である。

表4 用の類・中分類の比率 (高比率順)

順位	「トンパ」	「語彙分類表」
1位	精神および行為 48.90%	精神および行為 54.90%
2位	抽象的關係 44.78%	抽象的關係 38.45%
3位	自然現象 6.27%	自然現象 6.69%

【相の類】

相の類では、「トンパ文字総覧」の「抽象的關係」が突出し、「自然現象」、「精神および行為」の順である。『語彙分類表』の方は、「抽象的關係」、「精神および行為」、「自然現象」の順であり、「自然現象」が「トンパ文字総覧」の半分以下の11.28%である。「トンパ文字総覧」における「精神および行為」の比率の低さが見立つ。

表5 相の類・中分類の比率 (高比率順)

順位	「トンパ」	「語彙分類表」
1位	抽象的關係 58.82%	抽象的關係 45.97%
2位	自然現象 23.53%	精神および行為 42.75%
3位	精神および行為 17.65%	自然現象 11.28%

表6 自然物および自然現象

体の類中分類	小分類	分布数
自然物および自然現象	植物名	50
自然物および自然現象	獣	39
自然物および自然現象	鳥	36
自然物および自然現象	枝・葉・花など	20
自然物および自然現象	虫	17
自然物および自然現象	鉱物	16
自然物および自然現象	地形・山野	16
自然物および自然現象	膜・筋・神経・内臓	13
自然物および自然現象	植物	12
自然物および自然現象	頭・目鼻・顔	11
自然物および自然現象	骨・歯・つめ・甲	11
自然物および自然現象	色	9
自然物および自然現象	川・湖	9
自然物および自然現象	皮・毛髪・羽毛	9
自然物および自然現象	天気	9
自然物および自然現象	その他の無脊椎動物	8
自然物および自然現象	雨・雪	8
自然物および自然現象	手足・指	8
自然物および自然現象	化学分析・化合物	7
自然物および自然現象	血・孔・涙・汗・尿など	7
自然物および自然現象	火	7
自然物および自然現象	胸・腹・背	7
自然物および自然現象	天災	6
自然物および自然現象	はちゅう類	6
自然物および自然現象	光	6
自然物および自然現象	水	6
自然物および自然現象	死	5
自然物および自然現象	天体	5
自然物および自然現象	生	4

表7 生産物および用具

生産物および用具	農工具など	18
生産物および用具	食器	14
生産物および用具	刃物	13
生産物および用具	楽器	12
生産物および用具	おもちゃなど	11
生産物および用具	家屋	11
生産物および用具	道路・橋	10
生産物および用具	装身具	9
生産物および用具	家具	8
生産物および用具	地類 (土地利用)	8
生産物および用具	調味料・麺など	7
生産物および用具	器	6
生産物および用具	食料	6
生産物および用具	屋根・柱・壁・窓・天井など	6
生産物および用具	コード・網・なわなど	5
生産物および用具	燃料・肥料	5
生産物および用具	乗り物 (陸上)	5
生産物および用具	ピン・ボタン・くいなど	5
生産物および用具	飯・そば・パン・汁など	5
生産物および用具	門・塀・階段	5



図3 トンパ文字をあしらった小箱 (学生の作品)

表8 抽象的關係

抽象的關係	一二三	66
抽象的關係	朝晩	11
抽象的關係	単位 助数接辞	9
抽象的關係	内外	5
抽象的關係	方面・方角	5
抽象的關係	中・かみ・しも・頂・すみ	5
抽象的關係	季節	4
抽象的關係	模様・目	4
抽象的關係	上下	3
抽象的關係	点・線	3
抽象的關係	日	3
抽象的關係	ふち・そば・まわり・沿い	3
抽象的關係	奥・底・隣・陰	3

表9 人間活動の主体

人間活動の主体	神社・精霊	15
人間活動の主体	親・祖先	9
人間活動の主体	人物	9
人間活動の主体	子・子孫	8
人間活動の主体	親戚	8
人間活動の主体	兄弟	7
人間活動の主体	専門的・技術的職業	7
人間活動の主体	夫婦	6
人間活動の主体	老少	6
人間活動の主体	われ・なれ・かれ	6
人間活動の主体	家族	5

表10 人間活動 精神および行為

人間活動 主体および行為	人生・禍福	12
人間活動 主体および行為	祭儀・式・宗教的行為	8
人間活動 主体および行為	勝敗	4
人間活動 主体および行為	戦争	4
人間活動 主体および行為	農業・営林	4
人間活動 主体および行為	医療	4
人間活動 主体および行為	製造・荷造り	4
人間活動 主体および行為	苦悩・悲哀・恐れ・怒りなど	3
人間活動 主体および行為	心	3
人間活動 主体および行為	飼養・採取	3
人間活動 主体および行為	対人感情(好悪など)	3
人間活動 主体および行為	旅・行楽	3

4-4. 「トンパ文字」と『語彙分類表』小分類

4-3の①, ②の結果から, 大分類では, 「トンパ文字」の「用の類」の低比率が目立ったものの, 中分類まで比率を見ると『語彙分類表』と相似していることがわかった。むしろ, 「体の類」の中分類における比率の方が, 『語彙分類表』とは大きく異なっていることがわかる(表3参照)。したがって, 4-4では「トンパ文字」

の「体の類」小分類を見てみることにする。

表6~10で, ある程度該当数(分布数)の高い小分類項目を, 中分類見出し毎に並べてみると, 「自然および自然現象」では動植物名が上位を占める。「生産物および用具」では, 農工具・食器・刃物・楽器・おもちゃが上位を占める。また, 家屋に関する語も多いことがわかる。「抽象的關係」では極端に一二三の数名詞が多く, 朝晩の語が続く。「人間活動の主体」では, 神仏・精霊, 親・祖先, 人物, 子・子孫と続く。最後に「人間活動 精神および行為」では, 人生・禍福, 祭儀・式・宗教的行為, 勝敗の順である。

体の類において, 分布の多い小分類を頻度10以上まであげた(表11)。「一二三」とは, 数(一から万, 三万, 億, 兆など), 十二支, 十二ヵ月, 一ヵ月の各日などである。ところどころ抜けている数や日もある。

数 ◆ Number (1)

7	77	777	77 77
一/one	二/two	三/three	四/four
777 77	777 777	7777 777	7777 7777
五/five	六/six	七/seven	八/eight
777 777 777	X	000 000 000	000
九/nine	十/ten	十二/twelve	十三/thirteen
000 000 000	0000 0000 0000	000	000
十四/fourteen	十五/fifteen	十七/seventeen	十八/eighteen
000 000	0000 0000	XX	000
十九/nineteen	二十/twenty	二十/twenty	二十一/twenty-one
0000 0000	~	0000	0000
二十二/twenty-two	二十三/twenty-three	二十四/twenty-four	二十五/twenty-five

図4 「数」のトンパ文字(「トンパ文字総覧」の一部)

植物名は, 柿, つつじ, サボテン, 茶, 椿, 橘, 藤, 梅, 柏, 栗, 桑など馴染みのある語が多い。

また、油の出る木（油やし）、黒檀などは南方の土地柄を思わせる。「○○の木」と「○○」が別に存在する場合と、複数の「○○」のみが存在する場合もあり、例えば松は葉だけを描いて「松」とし、木全体（根は描かない）を描くと「松の木」になる。栗の場合は同じ木でも実がなっている「栗」と、実と葉が描かれている「栗の木」になる。しかし柏の場合、「柏」という木を描いたものが2種あるのみで「柏の木」

表11 体の類・分布数が高い小分類

中分類	小分類	分布数
抽象的關係	一二三	66
自然物および自然現象	植物名	50
自然物および自然現象	獣	39
自然物および自然現象	鳥	36
自然物および自然現象	枝・葉・花など	20
自然物および自然現象	農工具など	18
自然物および自然現象	虫	17
自然物および自然現象	鉱物	16
自然物および自然現象	地形・山野	16
人間活動の主体	神社・精霊	15
生産物および用具	食器	14
自然物および自然現象	膜・筋・神経・内臓	13
生産物および用具	刃物	13
自然物および自然現象	植物	12
人間活動精神および行為	人生・禍福	12
生産物および用具	楽器	12
自然物および自然現象	頭・目鼻・顔	11
自然物および自然現象	骨・歯・つめ・甲	11
生産物および用具	おもちゃなど	11
生産物および用具	家屋	11
抽象的關係	朝晩	11
生産物および用具	道路・橋	10

は無い。分類上は、どちらかある方に統合した。(植物名は他に「該当なし」の項も参照。)

獣は、犬、猫、狼、熊、鹿、ロバ、豚、猪、兎、鼠、リスなど。また、アリクイ、水牛、サイ、駱駝、象、なまけもの、獅子(ライオン)、豹、虎も存在する。それぞれの字は、耳、目、口、胴体と向かって右向きという共通点がある。それらにその獣の特徴を1つだけ強調して付け、他の文字と区別している。

次に「農工具」を見る。唐鋤、鋤、熊手、篩、やすり、砥石、スコップ、ハンマーなど。「神仏・精霊」は、男神、女神、天神、武神、魔女、魂、妖怪、亡霊など。(「該当なし」の項を参照。)そして、「人生・禍福」は、吉、凶、運、悪運、開運(の偶像)などである。

体の類で頻度が高もつとも高いのは序数詞である。次は動植物・自然や生活用具の名称が多く、他は神仏・精霊、人生・禍福などに関する語である。

以上の各結果から、トンパ文字が素朴で原初的な世界を描き出す語彙に偏っていることがわかる。

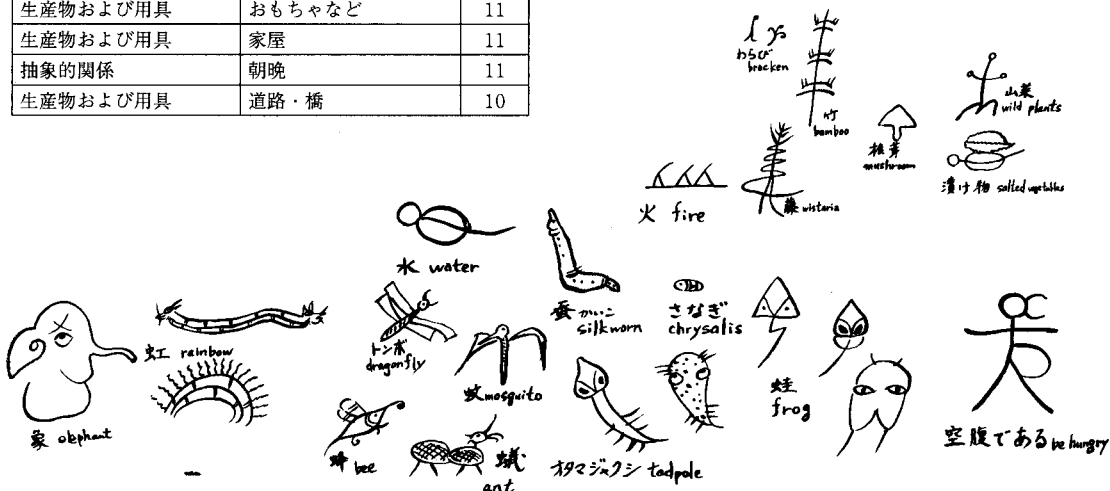


図5 いろいろなトンパ文字(筆者の横写)

4-5. 「該当なし」項目について

表12 「該当なし」項目の「トンパ」分類

トンパ分類	分布数
宗教	81
生活	72
動物	39
自然	27
星座	24
数	19
ひと月の暦	17
人間	16
植物	12
動作	4
人体	1

『語彙分類表』では該当する項目が無い文字(語彙)が312あった。それを「トンパ文字総覧」でなされた分類毎に見る。

①宗教

「悪運の鬼」「争う鬼」「うるさい鬼」「餓死の鬼」「カビ鬼」など、鬼の種類や、「チベット族の占い師」「ホアン族の占い師」など近隣部族の占い師、「法杖」「法輪」「儀式用の剣」「儀式用の傘」など儀式用の品、「三尊神」「聖なる米」「西方の魔王」「善の神の妻」「龍王」「六代前の祖先」などの神話や伝説の登場人物と思われる特殊な神名などがある。

今回は、例えば「カビ鬼」であれば「カビ」と「カビ鬼」と「鬼」と分け、それぞれに分類番号を当てている。「カビ」と「鬼」には分類番号が当てられたが、「カビ鬼」は「該当なし」であった。

②生活

「稲棚」「唐鋤の縄」「唐鋤の歯」「唐鋤の骨」などの農業用語、「箸を入れる籠」「バター茶」「雪茶」「あぶり肉」など日本とは違う産物や日用品、「本の上」「本の下」「本の中」「部屋の裏側」「夏の港」「冬の港」など、日本語の語彙として有りそうで無い細かい言い分けがあることがわかる。

③動物

「赤い狐」「金色の孔雀」「黄色い鹿」「黒い

鹿」など色の特定された動物名、「飛ぶ蛇」「ジャコウジカ」など日本では珍しい動物名、「爪のある野獣」「角のある野獣」「強い鳥」「斑紋のある野獣」「ひづめのある野獣」などの分類の相違、「虎の足」「虎の爪」「野獣の角」「野獣の歯」「野獣の耳」などの細かい言い分けがある。また「良い馬」「悪い鷹」などは物語特有の言い方ではないかと思われる。

④自然

「赤岩」「白岩」「黒岩」「青岩」という色による岩の言い分けがある。また「岩木」「岩の穴」「巨大な石」「大きい石」「月の隕石」などがある。「美しい山」「土の山」「万年雪の山」などは、山岳地帯ならではの豊かな語彙である。「銀塊」「黒い真珠」などは産物であろうか。「水の気」「地の気」は「水蒸気」「霧」に相当するのかもしれない。

⑤星座

同じ星座を指していても、名称が違えば語彙としては対応しないことになる。よって、この分野は個別に研究されるべきものであろう。

今回は、『語彙分類表』にはない星座名をあげるのみである。「赤目星」「馬星」「かえる星」「雉星」「ハリネズミ星」「兄弟星」「三角星」「水頭星」「水尾星」「鷹星」「猪口星」「猪脂星」「猪腰星」。他に星座名として「織姫の尾」「織姫の肩」「織姫の腰」「織姫の花」「織姫の耳」「織姫の目」「織姫の足」「織姫の肝臓」がある。字は3点の星がさくらんぼ状に2点で結ばれ、その右に目や肩や肝臓や足の文字描かれているといった構成である。巨大な「織り姫星」がおそらく存在し、部分的に見ることが多いのではないかと想像するにとどまる。

⑥数

12、13、14、15、17、18、19、21、22、23、24、25、26、27、28、29、52、1500、26000に当たる文字。日本語に無いわけではない。

⑦ひと月の暦

一日から十日までは該当したので、抜けている十一日は除外し、十二日から二十日を除けた(該当あり)二十八日まで。文字構成としては、星の形あるいは物を型抜きしたと思われるシンボルひとつである。例えば「二十一日」は、耳の形の型抜きと思われる文字で、他に「耳」「凶」と併記されている。「二十二日・目・吉」というように。このような語彙の中で、日付以外に「女性器(一日)」「猪の尾(十九日)」「猪の性器(二十八日)」「男性器(二十六日)」には該当なしであった。

⑧人間

「ナシ族」「イ族」「パイ族」「プミ族」「リス族」などはナシ族が近隣あるいは同じ土地に居住する他部族名である。「子供の奴隷」「反抗する奴隷」「放牧する奴隷」「悪い奴隷」「集団逃走する奴隷」「奴隷の主人」など、奴隷に関する語彙が豊富なことから、奴隷制度が定着している(少なくとも過去には定着していた)ことを物語っている。

⑨植物

「パンの木」「蚕豆」「のびのび草」は現地特有の植物あるいは特有の名称かと思われる。「松の種」「杉林」「茶の葉」「つつじの葉」「ちんげんさい」などは『語彙分類表』に載っていないだけである。「堅い木」「悪い木」などは日本語の1語彙としては存在しないと思われる。

⑩動作

「水を飲む」「酒を飲む」「大声で叫ぶ」「林を焼く」の4語。これらをひとまとまりの語彙と認識しないだけで、特有の動作ではない。したがって、「水」と「飲む」、「大声」と「叫ぶ」のように分解した。トンバ文字では、酒とお茶を飲むでは、口から容器に伸びる管の先が異なる。水の場合は管が無い。また林を焼く場合は、火にくべているのが木や枝になる。大声で叫ぶ場合は、口からでている線が長い波線になる。

⑪人体

「肩の骨」1文字である。これは日本語の1語彙としては認識されていないだけである。

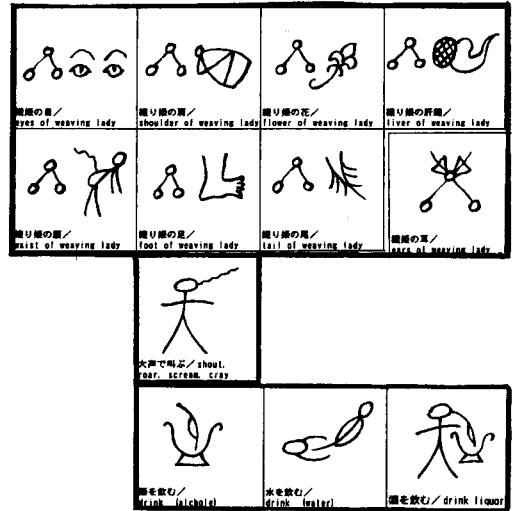


図6 「該当なし」のトンバ文字(『トンバ文字総覧』の一部)

4-6. 『語彙分類表』にあつて「トンバ文字」に無い小分類見出し

①体の類「抽象的関係」

こそあど、事柄、真・実、類・例、関係、本、因果、理由・目的・証拠、異同、類似・一致、相対、連絡・連結、有無、存在、内在、滞在、出現、復活・前兆・興亡、確立、残存、保存、様相、情勢、回転・動揺など、停止、通行、巡回・すべり・流れなど、通過・普及など、進退、上り下り、往復、込み、乗り降り・浮き沈み、離合・集合、統一・組合せ、分離・分散、接触・接近、変形、引き上げ・引下げなど、伸縮、増進・充実・耐久など、発達・消長、位置・地点・場合、時間、毎日・平生、期間、永久・一生、年配、時代、週・週日、古今、現在、過去、未来、順序、新旧・遅速、前後、日程・日課、角・円・三角形など、穴・口、量、数、値・額、整数・対数など、長短・広狭、角度・軽重・寒暖など、速度、多少、円・尺・坪・合・匁など、年・時・ワット・馬力など、割・前など、和・差・比・率など、合計など、群・組・対 …92/156 (58.97%)

該当なしの語数/『語彙分類表』中分類見出しの総数

②体の類「人間活動の主体」

成員・職、販売など、農・漁・伐木、運輸、保安サービス、長、臨時的地位（役・役員）、臨時的地位（作者・仕手・主役・観客など）、機関、政府機関、公共機関、議会、軍、国際機構、閣
 …17/62 (27.41%)

③体の類「人間活動 精神および行為」

性情、感情・気分、対人感情（敬意・信頼など）、自我・信念・努力・忍耐など、自信・名誉・勇氣、態度・反省など、信仰・宗教、練習・まね・学習、習慣・記憶・記念、知・知識・意見、思考・感想・疑い、比較・区別・選択・参考、計算・しんしゃく・測定・評価、研究・実験・調査・検査など、想像・推測・判断・決心など、承認・肯定など、意味・問題・趣旨・大綱など、話題・概念など、論理・うそ・誤り・訂正など、証明・裏付け、学問・学科、説・論、原理・規則・主義、方法、制度・慣例、計画・案、見聞き、見・観・覧など、視・察・番、提示、聞き、言動、言語、名、表現・叙述・翻訳、文法、音韻、文字、符号、表・図・譜・式、発言・沈黙、合図・あいさつ、伝達・報知、話、問答、批評・弁解、言論、説明、宣言・発表、報告・申告、うわさ、読み書き・読み、記載、記名など、文章、辞書・目録・暦、創作・著述、芸術・文芸、音楽（曲）、演劇・映画、文化・歴史・風俗、処世、出処進退、生活、衣、学事・兵事、慶弔、遊樂、遊び、騒ぎ、立ち居、手の動作、口の動作、義務、権利、身上、人柄、才能、威厳・行儀・人望など、行為、活動、用事、成功・失敗、成績、交わり、争い、出欠、対面・訪ね・招き、紹介・周旋、約束、賛成・許容、協力・参加、奉仕、競争、平和、國務、裁判、刑、捕縛・釈放、設立・運営、人事、教育、訓諭、養成、救護・世話、命令・制約、待遇、礼、賞罰、脅迫・愚弄・中傷など、所有、経済・収支、税、価格・費用、給与・料金・利子、損得、取引、譲与・支給、受領・送付、貸借、貧富、仕事、産業、生産、農事、営林、飼養・採取、製造工業、印刷・製本、建設・土木、建築、運輸・交通・通信、医療、出版・放送・興行、家事、裁縫、洗濯など、炊事、掃除など、設備・作業・手当て・処理、練り・塗り・

射ち・その他、使用、製造・荷造り

…143/194 (73.71%)

④体の類「生産物および用具」

荷、貨幣、型、飾り、袖・衿・身頃・ポケットなど、梅干・豆腐・寒天・とろろなど、さかな・鯉節・肉、菓子 …8/78 (10.26%)

⑤体の類「自然および自然現象」

刺激、におい、味、材質、気象、物質の変化、熱、地帯 …8/60 (13.33%)

⑥用の類「抽象的關係」

關係、異同、相對、存在、でき・利き、取り寄せ・つりあい、障り・やりくり、作用・変化、変換・改新、連続・反復、動き、進退、出入り、強め・衰えなど、時間・時刻、形、過不足・優劣など …17/66 (25.76%)

⑦用の類「精神および行為」

誇り・恥じ・気どり・ひがみなど、比較・選択、誤り・訂正・証明など、計画、見聞きする、見る、聞く、見せる、かぐ、味わう、言語・表現・報知、問答、聞かせ、読み書き、読み、文化・風俗、祝福・処世、学事・兵事・籍、労働、住、保健、いたずら・騒ぎ、人事、教育、待遇、頼り・おもねり・責め・仕返しなど、値、貸借、貧富、興行、扱ひ、使用 …38/90 (42.22%)

⑧用の類「自然現象」

刺激、光、色、音、におい、味、凝り・粘り・澄みなど、煙、天災、凍り・さびなど、天象、病 …14/21 (66.66%)

⑨相の類「抽象的關係」

こそあど、真・正、關係、關係の仕方、相互・異同、整い方（秩序）、在不在、繁簡、普通・非凡、特別・異様、調子・出来、変化・動き、ぐいなど、ぱつとなど、ふとなど、じつとなど、くるりなど、によきによきなど、こくりなど、ふわりなど、さつとなど、はらりなど、ぽつかりなど、べたりなど、ぐさりなど、時、すぐ・次第になど、一度に・再び・毎度など、過現未、ま

だ・もう・もっと・また、新しい・古い、翌・次、
 相対的位置、場所、しなやか・きれぎれ・ふさふ
 さなど、重い・軽い、ひとり・みんな、限り・全
 く、くらい・ほど、およそ・かつがつ・最も・もつ
 と …46/58 (79.31%)

⑩相の類「精神および行為」

苦しい・悲しい・こわい、はずかしい・ほしい・
 くやしい・ありがたい、好き・きらい・かわいい・
 にくらしい・しくしく・にこにこ・ぷりぷり、か
 しこい・おろか、くわしい・たしか・あやしい、
 意味、眼、ことば、風俗風采、禍福・世情、仕
 事、身のふるまい、身上、偉い・けち・すごい・
 不屈き、純情・正直・慎重、がんこ・率直・気軽、
 快活・柔和・勇猛、みずから・あえて・ぬけぬけ、
 熱心・努力、細心・勤勉・けなげ、交渉・交際、公
 式・公平、ていねい・親切 (対人態度)、経済
 …29/36 (80.56%)

⑪相の類「自然現象」

刺激、とんだなど、ずしりなど、ばちりなど、
 かさかさなど、からからなど、きゅつきゅなど、
 さくさくなど、すばすばなど、しゅうしゅうな
 ど、におい、水分、火、地、生・性、からだ、
 生育、健康 …24/30 (80%)

⑫その他の類

接続関係、累加、展開、反対、選択、同帰、
 補充、転換、理由、〔感動〕、掛け声、〔間投〕、
 判断、判定、予期、希望、仮定、うたた、なん
 と、疑問、〔呼びかけ・指図〕、応答、万歳、ア
 ーメンなど、あいさつ、手紙用語、待遇
 …26/26 (100%)

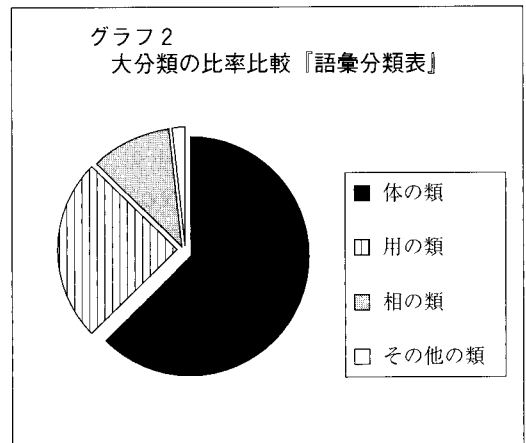
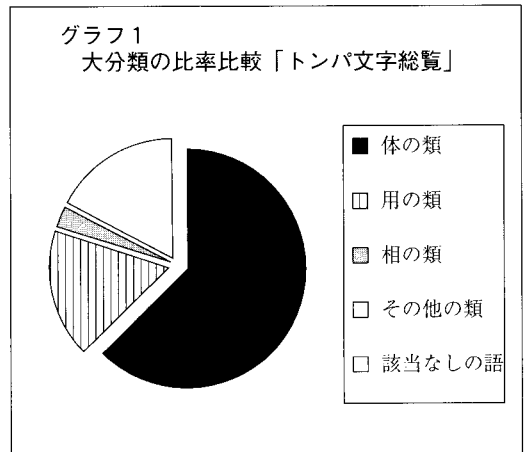
表13 『語彙分類表』において「トンパ文字」
 に無い中分類見出し(上位)

順位	大・中分類見出し	比率(%)
1	その他の類	100
2	相・精神および行為	80.56
3	相・自然現象	80
4	相・抽象的關係	79.31
5	体・人、精神および行為	73.71

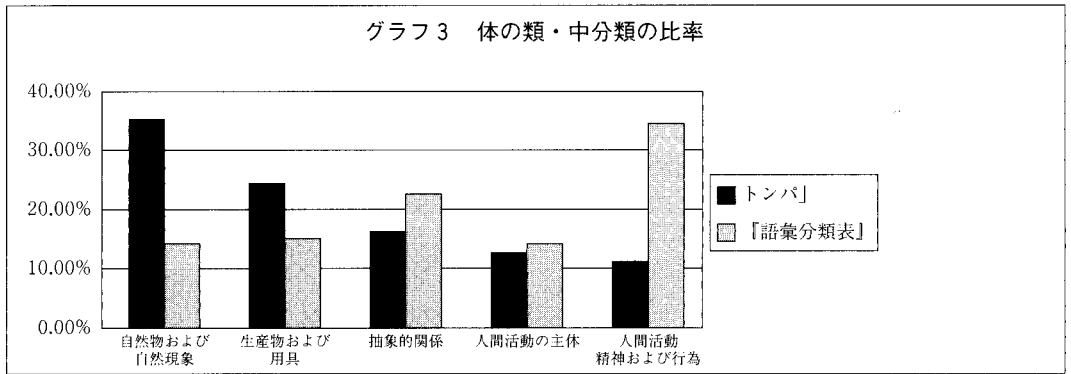
※「人、精神および行為」=「人間活動 精神および行為」

5. 考察

4-3.①②の通り、「トンパ文字総覧」におい
 ては、用・相の類の比率がそれぞれ17.97%、
 2.74%と低い(表1・グラフ1と2)。中分類
 を見ると、体の類は「自然物および自然現象」
 35.53%と「生産物および用具」24.49%で合わ
 せて60.02%も占める。『語彙分類表』の方では
 「自然物および自然現象」13.92%と「生産物お
 よび用具」14.69%を合わせても28.61%にしかな
 らない(表3・グラフ3)。



グラフ3 体の類・中分類の比率



一方、『語彙分類表』では1位の「人間活動精神および行為」34.71%が、「トンパ文字」では10.87%であり、また相の類「精神および行為」も『語彙分類表』では42.75%、「トンパ文字」では17.65%と低いことが目立つ（表3と表5・グラフ3）。

「トンパ文字」を『語彙分類表』の大分類・中分類に照らして見る限り、自然や生活に密着した語彙が中心で、人間の内面や行動を表現する語彙は乏しいことがわかる。

さらに4-4の『語彙分類表』体の類・小分類の分布の多い小分類を見ると（表11）、序数詞、植物名、獣、鳥、枝・葉・花など、農工具、虫などが上位を占め、自然と共生する素朴な生活を思わせる。また、神仏・精霊や人生・禍福といった小分類の分布も高いことから、トンパ文字の世界が、宗教やそれに伴う占いと密接に関わってきた事実⁹を裏付ける。

ここまでの結果から、自然・自然物あるいは生活用品などの、いわば身の回りの語彙には不自由しないと思われる。中国雲南省のナシ族の生活習慣や自然・気候は、前述したように日本のそれとかなり共通しているからである。

他に『語彙分類表』には無い「該当なし」としたトンパ文字（語彙）を見ると、トンパ教特有と思われる神や鬼の名称（善の神、餓死の鬼など）、農工具の細かな名称（唐鋤の齒、箒を

入れる籠など）、色の指定がある動物や岩（黒い鹿、白岩など）、特有と思われる星座名（赤目星、かえる星など）がある。「トンパ文字総覧」の分類で「宗教」がもっとも多いことからわかるように、トンパ教や伝説、神話、昔話に登場する、実在しない神や動物などの名称が多く含まれると予想される。『語彙分類表』に採用されていないだけで、実際には使用されている数や日付、動作、人体の部位などは「該当なし」とは言えない。したがって、実際に「該当しない語」は312語よりはるかに少ないということになる。

つまり、『語彙分類表』は「トンパ文字総覧」に登場する文字の意味する語彙を、ごく一部を除いて網羅しているといつてよい。

4-6.では、トンパ文字で描く際に不自由すると思われる語彙について調べた。4-6.①～⑫の結果の通り、我々の精神および行為に関する語彙が著しく欠如している（表13）。「その他の類」は日本社会特有と思われる感動詞、問投詞、擬態語などであるため、該当する語彙は仕方がないと言えるしかし、「相の類・精神および行為」では80.56%が欠如、単純に計算すると20%弱しか表現できないことになる。4-6.②「人間活動の主体」、同③「人間活動 精神および行為」の小分類（見出し語）を見ると、販売、運輸、保安サービスや、政府機構、議会、国際機構などの業種や政府に関する語彙の欠如、裁判、教育、経済、雇用、協力、奉仕など、現在の我々の社会生活に必要な語彙が欠如している

⁹ 覃光広他編『中国少数民族の信仰と習俗』下巻「西南地区2-33ナシ<納西>族」（第一書房1993.2）

と思われる。

また、同⑦「用の類・精神および行為」を見ると、見る、聞く、読むなどの基礎動詞が欠如していることがわかるが、これは大変興味深いことである。他の文字で代用しているとしても、日本語では大変重要な基礎動詞と言ってよい「見る・聞く・読む」を表現する文字がなぜこのリストに載らなかったのか。『モノ象形文字標音文字字典』には立項されている¹⁰⁾ので、疑問である。

最後に4-6.⑩「相の類・精神および行為」の苦しい、はずかしい、好きなど喜怒哀楽に関する語彙やけち、正直、快活、勤勉、親切などの人物評価などの語彙も欠けている。

今回の調査結果から、日本語使用者がトンパ文字で表現活動を試みる場合、自然、自然物、素朴な生活用具、人体の各部位、神仏、禍福などについてはおおむね表現できるであろうことがわかった。しかし、感動詞、間投詞、擬態語などを表す語彙はほとんど無く、現代社会の複雑な社会の仕組みや政治機構を表す語もかなり不足しており、また、心情や人物の評価の語彙も乏しいことが、同時にわかった。これらの一部分は、トンパ文字を解釈する大トンパたちが読経の際などに補って表現していると予想される。絵画的な描写によっておのずから表現できる事柄や概念も多少はあるだろう。このことは今後さらに研究して、象形絵文字の特質として明確にしたいものである。

しかしながら、語彙としての偏り・欠如は、トンパ文字を愛する人々の思いとは別に、時代や社会の要求とは乖離している。実用的な文字として、今後も生き残ってゆくことは大変に難しいと予想される。大トンパの威力・威厳や役割も、年を経ると共に変容しているらしい。『トンパ文字』59頁には、麗江の町で昼間、テレビの前で踊りながら歌う娘のイラストと、カラオケが流行していることが記されている。こ

の都市化・文明化にナシ族やトンパ文字がどう対応していくのだろうか。どうか飲み込まれてしまうことのないように、と筆者は心細くも祈っているのである。

今回は『語彙分類表』に照らし合わせることによって、トンパ文字の偏りを探り出してみた。

『語彙分類表』は未完成であるが、最新のものであり、『語彙分類表』から50,000語以上も増補されているので、これを用いた方が現在の我々の日本語世界により近くなると判断し、採用した。現代日本社会とトンパ文字との共通点と隔たりが、それぞれ浮き彫りにされたと言える。

トンパ文字が豊かに描く自然、自然物、原始的な生活用具、あるいはまた宗教や星座の語彙に、我々の失われた語彙を見る思いがする。

6. 研究の将来

異郷の土地の、今やその生命を絶たれんとしている象形絵文字および語彙を研究することは、大変に無謀なことだと自覚している。至らぬ点や愚かな誤りも数多いであろう。しかし、このトンパ文字に出会ってから、筆者は楽しみ、安らぎ、多少の変化を遂げた。トンパ文字を通して、中国少数民族の文化や中国語などに興味ひかれ今まで敬遠していた文字や語彙の世界が近く感じられるようになった。わずかな文字のまとまりが、筆者にもたらしてくれたものは多い。特に短期大学の学生と絵の具やパソコンを用いて一緒にトンパ文字を描けたこと、研究できたことは大きな収穫であった。

トンパ文字によって、筆者は学生と共に楽しみ、また研究をするという、今日なかなか難しい課題を乗り越えていく自信を少々得たのである。研究は始まったばかりである。今後は、トンパ文字研究の現在をより詳しく知り、作業を積み重ねていく予定である。また、一方でトンパ文字のふるさと雲南の地を訪れ、社会の趨勢の中でトンパ文字はどうなってゆくのかを見守りながら、日本では本学の学生を中心に、トンパ文字の魅力を広めていきたいと思っている。

¹⁰⁾ 「見る」(580, 581, 586)は、「トンパ文字総覧」97p.3-1と類似した字。「聽見(聞く)」(589)は、97p.2-3に線が足されたもの。「読む(623)」は100p.2-4と同字。

諸先輩方からのご指摘やご指導をいただければ幸いです。

【参考文献】

- 西田龍雄『生きている象形文字—モソ族の文化—』
(中央公論社1966) (前出)
- 李霖燦他編『モソ象形文字標音文字字典』
(文史哲出版1945) (前出)
- 方国瑜編選『ナシ象形文字譜』
(雲南人民出版社1981) (前出)
- 山田勝美『生きていた絵文字の世界』
(玉川大学出版部1977) (前出)
- 荻野綱男
「シソーラスのための語彙の意味分類をめぐって」
—「焼魚は魚か」—
(『日本語学』Vol.12 5月号 明治書院1993所収)
- 野元菊雄「簡約日本語語彙の意味分野」
(『日本語学』Vol.12 5月号 明治書院1993所収)
- 村木新次郎「日独両語の単語をめぐって」
(『日本語学』Vol.12 5月号 明治書院1993所収)
- 斎藤達次郎「ナシ族のトンバ教神話とモンゴル叙事詩」
(『アジア諸民族の歴史と文化』
—白鳥芳郎教授古希記念論叢—六興出版1990)
- 草光広他編「ナシ〈納西〉族」
(『中国少数民族の信仰と習俗』下巻 (第一書房1993)
(前出)

【謝辞】

まず、はじめにトンバ文字の研究について相談したところ、不安な筆者の背中を押してくださった国立国語研究所言語体系研究部の笹原宏之氏に深く感謝致します。氏の恩恵はここに尽くせませんが、脚注3で示したテレビニュースのビデオをダビングして下さったのも笹原氏です。また、『語彙分類表』の研究会(1996.03.22国立国語研究所言語体系研究部)に出席したことが今回の研究を着想したきっかけになっています。研究会にお誘い下さった中野洋前研究部長、前第3研究室長の石井久雄氏他、研究会の関係者の方々にもこの場を借りて感謝申し上げます。

そして、学園祭でトンバ文字をデザインした作品の展示を平成10、11年にわたって行いましたが、その際に激励の言葉を掛けて下さった本学の諸先生方にも感謝致します。

以下、トンバ文字索引作成の入力作業に取り組んでくれた学生名を、感謝を込めて記したいと思います。

[入力作業協力者]

後藤恵美, 伊達真美子, 田村絵梨, 松本千尋,
梶江千智, 築城麻美, 並波枝里子, 森聖子,
桧枝千代, 中山丈広, 三ヶ尻克也 以上11名

初稿を校正中の1999年12月21日に、中野洋氏が病氣のため他界されました。

これまで受けたお心遣いに感謝しますとともに、ご冥福を心よりお祈りいたします。

了